



Profile ● 1993年 南方町峯生まれ。佐沼高卒業後、東北大農学部へ進学。本年3月に卒業しすぐに就農した。趣味はバイクツーリングと海釣り。モットーは「倒れるときは前のめり」

平成生まれの私たちは、高度化する情報とともに育ちました。気になることがあればケータイで検索し、欲しいものがあればケータイから買う。大量の情報と豊かな社会の中で、本当に必要なものや価値のあるものを見極める力にやや欠けている世代といえ

ます。ケータイ一つでモノも情報も手に入る時代、都市にできて地方にできないことは、ほぼなくなりました。むしろ、自然、食、歴史、文化などが豊かな地方、中でも古里登米市には、まだまだ潜在能力があり、大きな可能性を感じます。そんな登米市が大好きです。



1_師であり、サポーターである祖母のまつ子さん。2,3_登米市の伝統作物「ヒシマメ」。大地さんは、食用だけではなく、種を取るために栽培している

の奥深さに引き込まれていった。「大学を卒業したら就農したい」
反対する祖父母を押し切って、大学で農業経営を学んだ。進学の際、父から「どこで学ぶかではない。何を学びたいかだ」と言われ、理想とする農業スタイルを学べる学部や研究室を選んだ。

大学では、さまざまな体験をした。農業を生かしたまちづくりや地域おこし、ソーシャルビジネス、市役所のインターンシップなど、いずれも将来の糧となるものばかりだった。4年の途中からは、母の実家、東和町米川の休耕地を復活させ、野菜の作付けを始めた。荒れ地を耕し、土づくりから取り組んだ。

「失敗は成功への近道」がモットー。考えるより行動し、失敗からたくさん学ぶ。これが成功の秘訣だ。

ことを学ぶのが大地流。やらねばならないことは山ほどあったが、「つらいと感じたことも、苦しいと思ったこともない」と笑う。かつて、就農に反対した祖父母は師となり、サポーターとなって支えてくれる。50年の農業経験から学ぶことは大きい。こうして大地さんは、自然と向き合い、土と共に生きる自給自足のライフスタイルを手に入れた。

大地さんが育ててきたものは野菜だけではない。人や地域とのつながりも財産だ。「各種活動で行政や市内の人たちとつながった。母の実家の畑を耕したことで、米川の人たちともつながった。「多くの人に支えられ、今の自分がある」と感謝を忘れない。

最近、キャリアアセミナーなどの講師に招かれる機会が増えた。「情報過多の時代、生の声を聞くことで、若い人たちが、職業選択や生き方を選ぶきっかけになれば」と自身の経験をあますことなく伝えていく。「好きなこと、やりたいことをとことん追求すると、お金より大切なコトやモノが見えてきます。逆に、気になることや納得できないことを徹底的に掘り下げてみると、興味や関心が高まって、それをきっかけに天職と出会うこともあります」。

将来は、市の伝統野菜にこだわった園芸と山に放牧しての畜産、そして林業との複合経営を考えている。「自分のためだけにじゃなく、古里のために働きたい」ときっぱり。郷土愛は高校時代と変わらない。

や加速する人口減少に、「大好きな古里まで廃れてしまふのでは」と不安になり、「とにかく登米市を元気にしたい」と思った。

実家は農家。小さいころから、祖父母が作るおいしい米や野菜が大好きだった。その姿から「農業をやりたい」と思った。祖父母に伝えると「農業では食えないから、やめたほうがいい」。農業一筋に生きてきた祖父母の一言は衝撃だった。「やめろ」と言われ、逆に興味が増した。「どうすれば高く売れるのか」「楽に作業できる方法はないのか」など、次から次へと疑問がわき、本を読んだり、文献を開いたりして勉強した。農業を知れば知るほど、そ

郷土愛と情熱で古里の大地を切り開き理想のライフスタイルを手に入れた大卒農業男子を追う

古里で夢を

郷土愛と情熱で古里の大地を切り開き理想のライフスタイルを手に入れた大卒農業男子を追う

南方町峯出身の農業男子鎌田大地さん(23)

東和町米川にある60坪の畑に、レタス、ハクサイやニンジンなど80品種を作付する。そのうち12品種は登米市の伝統野菜。稲作中心の登米の農業に新しい風を起している。

農業は高校時代からの夢。土と共に生きる暮らしに「幸せです」とほほえむ。「プロ野球選手が夢だった。南方小・中時代はチームの中心で活躍。だが、自身の成長とともに「プロを目指すには実力も努力も足りない」と気付いた。

佐沼高2年の進路選択で大学進学を希望。卒業後は「登米市で働きたい」と心に決めた。長引く景気の低迷

や加速する人口減少に、「大好きな古里まで廃れてしまふのでは」と不安になり、「とにかく登米市を元気にしたい」と思った。

実家は農家。小さいころから、祖父母が作るおいしい米や野菜が大好きだった。その姿から「農業をやりたい」と思った。祖父母に伝えると「農業では食えないから、やめたほうがいい」。農業一筋に生きてきた祖父母の一言は衝撃だった。「やめろ」と言われ、逆に興味が増した。「どうすれば高く売れるのか」「楽に作業できる方法はないのか」など、次から次へと疑問がわき、本を読んだり、文献を開いたりして勉強した。農業を知れば知るほど、そ

11月5日にキャリアセミナーを受講した中田中1年の皆さんに感想を聞きました。



只野一騎君

将来はプロ野球選手になりたいです。話を聞いた中では、消防士に興味を持ちました。命や財産を守って感謝される仕事だからです。でも、夢は野球選手なので、練習だけではなくあいさつなどをしっかりしたいです。



佐藤理乃さん

保育士の話に興味を持ちました。これまで、子どもたちと遊んでいけばいいと思っていました。それは私の間違いで、子どもたちにものを教えるために、勉強や努力をしていることが分かりました。



及川正貴君

動物に関わる仕事がしたいと思っていましたので、獣医師の話を選びました。先生は、「DREAMS COME TRUE」夢と自分の気持ちを強く持つことが大切と話してくれました。それを忘れずに、頑張っていきたいです。



及川結生さん

キャリアセミナーに参加して、幼稚園教諭か保育士になりたいと思いました。前から興味を持っていましたが、詳しく話を聞いてやっぱりこれだと思いました。そのためにも、今できることをしっかり頑張ります。



只野瞬君

まだ、将来どんな仕事をしたいかは考えていません。講師が教えてくれた「ポコポコ」というイタリア語が心に残っています。自分のやりたいことを見つけてのために、いろんな職業の人たちの話を聞いてみたいです。



小野寺幸歩さん

将来何になりたいか決めていませんでした。私は犬が好きなので、トリマーの仕事が気になりました。今日聞いた話で心に残ったのは座右の銘を持つことです。苦しいときには、好きな言葉を思い出して頑張ります。